



UAゼンセンスポーツ産業政策推進プロジェクト報告 ザ・コーポレートゲームズジャパン in 東大阪 レポート



UAゼンゼン大阪府支部からは総勢22名が参加(写真上)。ボッチャの競技に力を合わせてのぞみ、UAゼンゼンの口口が入ったおそろいのユニフォームで仲間意識がさうして深まった



「ザ・コープレートゲームズ・ジャパン in 東大阪」は、花園中央公園や東大阪アリーナなど会場として、11競技が行われました。UAゼンセン大阪府支部は、東大阪の地域協議会のメンバーを中心、22名の精鋭を送り込み、「ボッチャ」に4チームでエントリー。白熱した戦いを開催しましたが、最終結果は6位、7位と2チームは予選落ちに…。優勝はできませんでしたが、初めての体験に皆さん大いに盛り上がっていました。

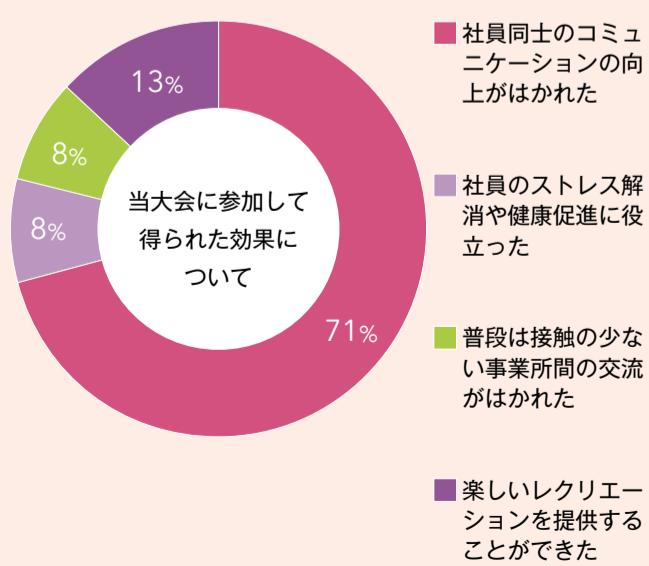
参加したダスキン労働組合の泰中沙織さんは、「とても楽しかったです！」誘つてもらつて良かつたです」と第一声。ボッチャは組

(ザ・コーポレートゲームズとは)

1980年代にイギリスで生まれ、世界37カ国85都市以上で開催されているスポーツの祭典。これまでに日本国内でも、東京、大阪、沖縄で開催され、2025年日本大会は東大阪市が主催し、11種目で競技が行われた。

◆ザ・コーポレートゲームズの効用◆

テレビ番組『ガイアの夜明け』でも紹介され、昨今希薄になった社内コミュニケーションの強化にスポットが当てられた。2018年の参加者調査では、71%が「社員同士のコミュニケーションの向上がはかれた」と回答している。



「スポーツの秋」のスタートを切って、10月11日土曜日、「ザ・コープレートゲームズジャパンin東大阪」が約20000名の参加者を集めて開催されました。東大阪市では、翌日の「マスターーズ花園」、翌々日の「市民スポーツの祭典」と合わせて「東大阪エンジヨイ・スポーツ3Days」として、スポーツによるまちづくりを大々的にPRしていました。

推進プロジェクト（以下「推進プロジェクト」）では、2017年に開催したスポーツシンポジウムで「ザ・コーポレートゲームズ」の概要や効用について紹介し、2019年からは特別協賛団体として大会のバックアップを行ってきました。しかし、その後のコロナ禍で大会自体開催されず、ことし、ようやく6年ぶりに開催が実現しました。

「U」

準備委員会からサポートを行い、UAゼンセン大阪府支部や兵庫県支部の運営評議会で参加促進活動などを行ってきました。こうして

UAゼンセン

合でも取り組んでいたため興味があつたそうで、「本格的な審判がジャッジをしてくれたのが良い経験になった」とのこと。「曰ぐろ会議で顔を合わせていたメンバーのなかには、今回初めて話すことができた人もいて、距離が一気に縮まりました。UAゼンセンの口ゴの入ったユニフォームを一着

「UAゼンセン」を社会にアピールする機会に



メイン会場の花園中央公園では、リレーマラソンや大縄跳び、綱引きなどが行われ、企業単位で盛り上がっていた。同僚や家族の応援など、競技参加者以外も大いに盛り込んでいた。

着用するひと
りました」とい
ふたてん、相手チ
セんつてなん
かれることも
ゲームズ（企
いう意味合い、
な気がしたと
「ねばさん」に
言葉をそのまま
こんなに真剣
ことに、ちょ
ました。来年
くり、ぜひ参
語ってくれま

JAゼンセンには、スポーツ関連産業で働く仲間の労働組合が
多数加盟しています。そこで、「スポーツ産業政策」を策定し、「ス
ポーツ産業の発展」や「組合員の健康促進」に取り組んでいます。
そのなかで、スポーツによる職場の「ミュニケーション強化ツ
ールとして、国際的なスポーツイベントである「ザ・コープレー
トゲームズ」に注目してきました。この
ほど東大阪市で開催された大会の様子
を、スポーツ産業政策推進プロジェクト
の前リーダー・石川要一氏（ミズノ労働
組合連合会前会長）がレポートします。



百川氏

着用することで、仲間意識も高まりました」と話してくれました。また、相手チームから「UAゼン

“スポーツの力”を実感